

ウィズみえユネスコクラブ (With Mie UNESCO Club)

趣意書

私たちは、2008年7月に学生による三重大学ユネスコクラブ(大学公認団体)を創設して以来、さまざまなユネスコ活動を行ってきました。たとえば、2009年に世界遺産登録5周年記念事業・熊野古道国際交流シンポジウム(主催:三重県、共催:イコモス)が尾鷲と伊勢で、そのプレミーティングが熊野と尾鷲で開催され、三重大学ユネスコクラブが全面的に協力・協働しました。

また、熊野古道協働会議や「美し国おこし・三重」等の多くの活動を通して、「“人類の宝もの”である世界遺産を守り、次代に継承するために、私たちが今できることは何か」と考えました。その折、「熊野古道をもっと多くの人に知らせ、ともに保全していきたい」と強く願い、海外からの留学生や日本人学生、三重県内小中高校・大学教職員、市民を公募して、熊野古道ツアーを自主的に3回主催して成果をあげてきました。

その間、他大学の学生を準会員として受入れて一緒に活動してきましたが、高校生・大学生・若者が一緒に活動できる団体を創りたいと考えるようになりました。また、卒業してしまうと継続できない大学クラブの不便さを改善して、卒業後もぜひユネスコ活動を継続したいという思いが強くなりました。

以上のことから、このたび15~34歳の若者を中心に「ウィズみえユネスコクラブ」を創設し、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟構成団体、全国的青年連絡組織正会員として活動するために設立しました。その目的は、ユネスコ憲章の精神に基づく活動を通して、世界の平和と人類の福祉に寄与することです。具体的には、さまざまな分野における地域貢献をはかる活動を通して、高校生・大学生、地域の若者が相互の交流や心身の成長をはかり、「よりよい社会づくり」「元気な地域づくり」に貢献しうる人格の形成を目指します。

ユネスコは、第二次世界大戦中の連合国文部大臣会議を経て、疲弊したヨーロッパの国々の教育・文化の復興から連合国教育局の設立構想へ、そして国際連合専門機関ユネスコ設立へと受け継がれて誕生し、平和を希求する活動が本格化しました。しかし、人類の歴史をみると、いつもどこかで争いが続いている現実があります。

わが国では、世界初の民間ユネスコ運動のうねりを後盾にして1951年にユネスコに加盟し、その5年後に国際連合に加盟しました。1952年には「ユネスコ活動に関する法律」が公布され、日本におけるユネスコ活動は官民あげての運動と位置づけられ、地域のユネスコ協会・ユネスコクラブ及びユネスコ連絡協議会は、地域の特色を生かしながら活動しています。

私たち「ウィズみえユネスコクラブ」はこうした状況をふまえて、“Think Globally Act locally”のスピリッツとESD(持続可能な発展教育)の視点を持ちながら、地域の中でさまざまなボランティア活動を実践し、平和のネットワークを「三重から世界へ」と広げていきます。

そして、ユネスコ精神を普及することによって人びとの意識を高め、県市町や教育委員会、学校や大学、NPO、社会教育団体等による「産学官連携」をしながら、平和で安心して暮らせる地域社会を築くための地道な活動を積み重ねていきます。